■開設年度	■開講部局
2018	共通教育

■科目名

現代企業経営論

■英語科目名

Management of Modern Corporation

■前後期	■開講区分	■科目形態	■単位数
前期	毎週	講義	2

■（２８年度以降入学生）中分類	■（２８年度以降入学生）小分類
教養教育科目(教養基礎科目)	人文社会科学分野（選択科目）
■（２５年度以降入学生）中分類	■（２５年度以降入学生）小分類
b．知力：人文・社会科学	11．経済・経営を学ぶ
■（２４年度以前入学生）大区分	■（２４年度以前入学生）中区分
教養科目	分野2

■受講学部学科

全学部

■担当教員	■担当教員所属
大前慶和	法文学部
■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
099-285-7603	omae@leh.kagoshima-u.ac.jp

■オフィスアワー（授業時間外の対応）

▼特に設けないので、メールでアポを取って欲しい。

■共同担当教員

なし

■アクティブ・ラーニング

1．グループワーク；5．学習の振り返り；

■アクティブ・ラーニング（「その他」の内容）

■アクティブ・ラーニング（授業回数）

１５回中１５回

■〈理念〉重要視する教育目標

３．〈論理的思考〉　１）幅広い視野から課題の解決策を考えることができる

■〈理念〉教育目標

１．〈自己理解〉　１）自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる

■〈理念〉教育目標

７．〈他者との協働〉２）他者と協力して課題の解決を図ることができる

■〈理念〉教育目標

■授業概要（目的・内容・方法）

▼経営学は、組織マネジメントを研究対象とする学問で、経済学とは質的に異なる学問分野である。まず経営学の基本的・伝統的な理論を紹介する。続いて、近年の組織マネジメント理論を概観し、現代が変革の時代であることを解説する。最後に、理論と実践との融合を図るために、授業担当者の実践としての共同研究を紹介する。なお、ホスピタリティについても取り上げ、東京ディズニーリゾートを事例として用いる。

▼ほとんどの授業は板書によって進めるが、板書は口頭での説明を補助するためのものであり、そのまま書き写すことは全く想定していない。ノートをとる技術の向上が求められる。最後の３回の授業では、パワーポイントを用い、資料配付を行わない。ノートをとる技術を高めておく必要性がさらに高まる。

▼できる限り各回にグループディスカッションを採用し、またその成果報告をしてもらう。また、授業シートを配布し、毎回の授業終了後に記入・提出してもらう。授業シートは次回授業冒頭に返却する。第１５回授業終了後には提出する必要はなく、試験勉強に活用して欲しい。なお、授業シートではなく manaba を活用することもある。

■学習目標

▼第１は、受講生が経営学を理解することである。経営学理論の基礎を理解することはもちろん、経営学の本質を探究する態度を求める。

▼第２は、受講生が経営学を実践することである。経営学は極めて実学的な性格が強く、したがって理解するとともに実践することが求められる。漫然と講義を受講するだけでは意味のない学問であることを理解した上で、履修登録を行って欲しい。

■授業計画・試験の有無（１６回［初修語は３１回］に分け、回数、授業内容、自学自習等）

1. 経営学とはどのような学問か（授業概要と結論の紹介）
2. 新古典派経済学の生産者理論と経済人の仮説
3. 伝統的管理論（１）
4. 伝統的管理論（２）
5. 人間関係論とリーダーシップ
6. 近代組織論における限定合理性の考え方
7. 行動科学、特にＹ理論の理解
8. コンティンジェンシー理論と経営戦略論の登場
9. 経営戦略論の展開（分析的戦略）
10. 企業文化の両側面（成功体験の功罪）
11. 変革の時代における新しい企業経営のあり方
12. Whatの経営とHowの経営（日本的経営の特質）
13. Whatの経営実現に向けた創発的戦略（パワーポイントによる授業）
14. 共同研究事例紹介（パワーポイントによる授業）
15. TDRを活用したセミナー（パワーポイントによる授業）
16. 期末試験

■授業外学習(予習・復習)

▼テキストを使用しないため、予習は特に求めない。しかし、徹底した復習を求める。単に板書をノートに書き写すような態度に終始するのではなく、授業に真剣に参加し、復習時には１コマあたり２時間程度をかけ、自分だけのノートをつくり上げること。

▼復習時に不明点がある場合は、メールでアポを取り、質問あるいは議論をするために研究室を訪ねてきて欲しい。こうした行動も、授業外学習の一環である。

■受講要件

▼意欲的に経営学を学ぶ姿勢を持っていること。
▼シラバスの内容を熟知していること。

■成績の評価基準

▼穴埋め記号問題および論述問題からなる期末試験を実施する（７０％）。持込は不可とする。出題内容は基礎的なレベルであり、復習を十分行い、自分だけのノートをつくり上げる姿勢を持っていれば、決して困難なものではない。

▼必要に応じ授業内にて小レポートを３回課す（合計で３０％）。復習の態度を測定するほか、当日の授業内容に関する出題もあり得る。単なる出席確認ではない。授業シートの提出を小レポート提出と見なし、採点する（manaba に入力してもらうこともあり得る）。

■教科書

▼使用しない

■参考書

▼指定しない

■地域志向科目の区分（平成２７年度入学生用）

■地域志向科目の区分（平成２８年度以降入学生用）

■その他

▼毎回の授業内容は、必ずしも計画通りに進むとは限らない。大きな流れを変えることはないが、受講者の理解、講義時間の都合などから、多少の前後や変更が想定される。